

金城学院大学 シラバス

開講年度(Year)	2021年度	開講科目コード(Course code)	29670001
授業科目名(Course name)	指揮法		
担当者(Instructors)	高橋 直史		
開設学部学科(Department)	文学部 音楽芸術学科	科目分類番号(Course classification number)	262
開講クラス(Class)	音 2	開講形態 (Course format)	演習
科目区分(Course classification)	専門教育科目 専門教育科目	単位数(Credits)	2
開講期・曜日・時限(Semester / Day of the week / Period)	前期 木曜 5 限	担当形態 (Instructor format)	単独
実験実習費 (円) (Experiment/training fee (yen))	1,800	履修者数上限 (名) (Maximum number of students)	

他学部他学科生履修不可(No other undergraduate departments students can study)

■授業の概要(Course outline)

指揮法の基礎を学ぶ。
オーケストラ、歌劇場での豊富な指揮経験のある教員が、その経験を生かして、指揮の基礎から、それをどう実際に活用して現場でどう指揮するかについて講義する。

■到達目標(Course goals)

指揮の基本テクニックを身につけている。

■履修上の留意点(Important points)

■学位授与方針 (Diploma policy)

1. 知識・理解

音楽芸術に関する専門的知識と演奏技能を身につけるとともに、豊かな人間性を支える教養と深い専門的知識を身につけている。 ○

2. 汎用的技能

日本語や英語で多様な人々とコミュニケーションを行うとともに、音楽演奏を通じて様々な楽想を適切に表現し伝えることができる。 ◎

音楽芸術の実技と理論を通じて身につけた感性と思考力を用いて、物事を的確に分析し考察することができる。 ○

■授業計画(Lesson plan)

- 「指揮という行為の必要性を考察する」
指揮棒の持ち方から指揮の基本動作の実践、二拍子・三拍子
- 「ブルグミュラー 25 の練習曲を使った指揮の演習」
速い二拍子：第 2 曲「アラベスク」、三拍子：第 19 番「アヴェマリア」
四拍子：第 16 番「小さな嘆き」
- 「強弱やテンポの指揮方法」
強弱の指揮：第 25 番「貴婦人の乗馬」、8 分の 6 拍子：第 3 番「牧歌」
応用練習：第 4 番「子供の集会」
- 「アフタクト、フェルマータの実習」
前回までの拍子を、オーケストラの名曲を使って復習
弱起(アフタクト)、フェルマータの練習

5. 「指揮の役割」 指揮の見方についての考察を通して、指揮者の役割について講義する。
6. 「アンサンブルの形態による指揮の相違」 アンサンブルの形態：合唱、吹奏楽、オーケストラによつての指揮の違いを解説する。
7. 「オーケストラの名曲を使った指揮の実践」 様々なオーケストラ曲の抜粋を指揮する。
8. 「指揮の作業」 いろいろな個性を持った指揮者の映像を鑑賞。指揮者だけではなく演奏家もそうであるように、得意不得意、音楽に感性が合う合わないといった個性の部分を講義する。
9. 「3つの音を聞く練習」 合唱譜、吹奏楽譜、オーケストラ譜を実際に見て、指揮者が何を読みとっているかを解説する。 未来の音、現在の音、過去の音を同時に聞くことの大切さを講義する。
10. 「複雑な拍子の指揮」 5拍子、1拍子(ワルツ含む)、7拍子等の複雑な拍子への指揮の仕方を解説する。
11. 「テンポ、拍子の変り目の指揮方法」 テンポ、拍子の変り目の指揮の仕方を講義する。
12. 「指揮者のメンタル面」 指揮者のメンタルについて。いかに緊張を克服するか、又それを受け入れる覚悟を持つ事の大事さを講義する。
13. 「オーケストラ(アンサンブル)の前で指揮するというイメージトレーニング」 音楽を指揮するという事と、人を指揮するというそのイメージの持ち方について解説する。
14. 「交響曲を使った実習」 序奏を持つ古典交響曲を使った指揮法の講義をする。
15. 「授業期間内試験とその講評」 3人グループに分かれたチームが、前回出された課題を使った指揮と演奏をし、その講評をする。

■授業時間外学修(予習・復習)の内容・時間(Preparation/review details and time)
自身が指揮する曲の準備を適宜行う事。

■課題/課題に対するフィードバックの方法(Assignments/feedback)
準備してきた課題に対して、授業内でフィードバックを行う。

■テキスト・参考書(Textbooks/references)
指揮棒を各自で用意すること。 各自の研究テーマに応じたスコアを指示する。 適宜プリントを配布。

■評価方法(Evaluation method)
授業参加度 60%
授業期間内試験 40%
授業期間内試験では、指揮者だけの採点ではなく、3人一組のチームとして採点します。

■授業時間外の学生からの質問への対応(Responding to questions from students outside class hours)
授業前後の時間。メール等はいつでも受け付ける。